

職員採用案内

全国土地改良事業団体連合会

食料生産を支える水と土を守り、 農村の魅力を次世代に紡ぐ



日本の農業・農村と関わり合って90年
水、土、里を守り、育んできた

水は、農業用水、地域用水

土は、土地、農地、土壌

里は、農村空間、農家、非農家の生活空間

これからの90年は、どんな時代になるだろう
歴史、伝統文化、それらを育んだ先人の想いを受け継ぎ、
変化していく時代を見据え、柔軟に対応しながら、
農業農村の未来を創造する「生業」^{なりわい}



全国土地改良事業団体連合会ってどんな団体？

土地改良法に基づき、昭和33年に農林大臣に許可を得て設立された営利を目的としない組織です。法人税法上は学校法人や社会福祉法人と同じ「公益法人等」に位置付けられています。

愛称は「全国^{みどり}水土里ネット」です。47都道府県の水土里ネット等が会員です。都道府県水土里ネットは市町村や土地改良区等が会員であり、全国的なネットワークが構築されています。

前身である帝国耕地協会が昭和2年に設立されてから90年以上にわたって、日本の農地・農業水利施設の機能向上、技術の普及・啓発に貢献してきました。

専務理事から皆様にメッセージ

みどり
水土里ネットは、人間の生存基盤ともいえる農地や農業水路といったかけがえのない地域資源を守り、育ててきたほか、地域住民の方と連携した地域づくりや地域農業の振興のための活動を行っています。



専務理事 室本隆司

やる気に満ちあふれた方をお待ちしています。

全国水土里ネットの業務は、会員である都道府県水土里ネット及び土地改良区に対する技術支援・指導、情報提供、調査研究、土地改良事業に関する協力などですが、それ以外にも、各種表彰、イベントやツールを活用した広報、21世紀創造運動の展開など、幅広いものとなっています。

儲かる農業など、国の政策を実現していくため、水土里ネットには、経営規模の拡大や高収益作物の導入促進といった営農、ブランド形成、マーケティング等を含めた総合調整の主体としての役割が期待されています。また、昨今、急激に技術革新がなされているICT、AIといった情報システムを農業用施設等に導入していく必要があります。こうした新たな課題を水土里ネットが担っていく必要があります。

また、皆が住みたい農村を実現するためには、ため池の整備・廃止など土地改良施設の危険性を除去し、防災機能を高めるとともに、農業農村の多面的機能を発揮していかなければなりません。

全国水土里ネットにおいても、新型コロナウイルス感染症を抑制する取組の一環として、テレワークを開始しましたが、農村におけるテレワーク環境が整えば、農村に移り住んで大企業に勤めることも可能になります。

土地改良区の果たしている役割は、それぞれの地区によって様々です。しかし共通しているのは地域にとって、とても大切な役割を担っているということです。

今、地域でともに生活する人たちは土地改良区の皆さんと一緒に地域づくりをしたいと願っているのではないのでしょうか。この人たちとちょっと意見を交換し、これからの地域づくりについて一緒に考えてみませんか。

時代の変化を見通して政策を提案し、その実現に向けて全力で行動することが常に求められます。

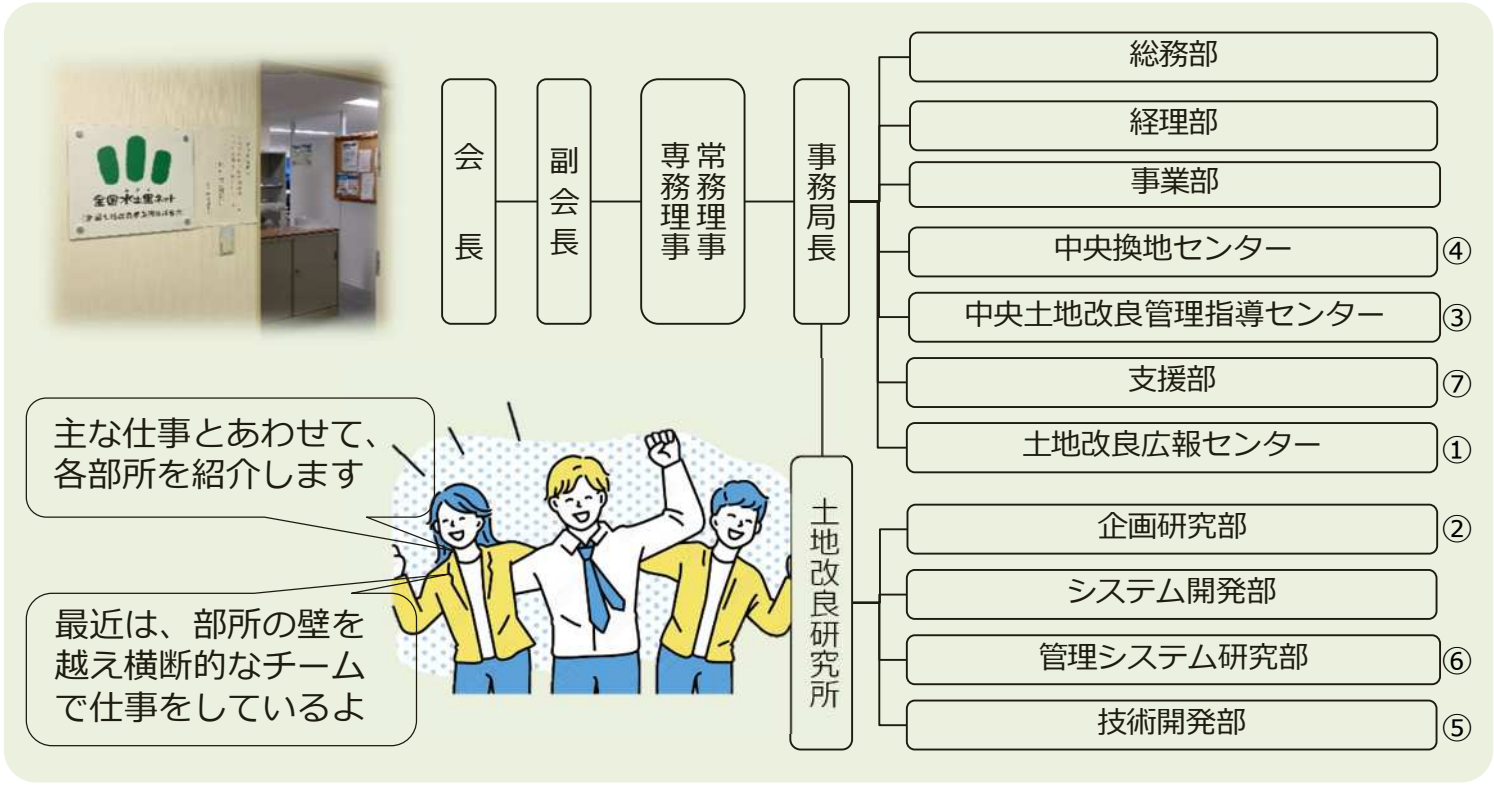
農林水産業に関する強い問題意識を持ち、広い視野と柔軟な発想の下、前向きにチャレンジしていくことができる人。そういう人を私達は求めています。



東京のど真ん中から日本の農業農村を支える仕事

全国的な視点に立ち、工学的な技術力のみならず、土地改良を担う社会組織を含めた人文社会の分野にも関わっています。

全国水土里ネットの組織（機構図）



主な仕事とあわせて、各部所を紹介します

最近では、部所の壁を越え横断的なチームで仕事をしているよ



①土地改良広報センター

- 私たちは、様々なイベントや媒体を通じて、農業農村の魅力や大切さを、大人から子どもまで国民に広く発信しています。
- 毎年「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展を主催。省庁や20以上の企業等とタイアップし、応募数は毎年約5千点。表彰式や受賞作品の東京都美術館への展示等しています。
- その他、季刊誌「新・田舎人」発刊、農業農村整備優良地区コンクール、農業用水に関する写真コンテストの開催等を行っています。



②企画研究部

- 私たちは、時代の変化や国の政策に沿った土地改良団体の貢献の在り方について調査、研究しています。
- GISなどICT技術を農業水利施設の維持管理に導入する取組の推進や、各地で設立が進み効果を上げている、ため池の防災減災対策を推進する組織（ため池サポートセンター）の事例を研究し、普及啓発のための研修会を開催する等、実際に行動することで政策の実現に貢献しています。



③中央土地改良管理指導センター

- 私たちは、ダム、水路、ため池など農業水利施設の管理に必要な技術の他、先進的な取組など優良事例を研修で普及・啓発し、施設管理の指導者を育成しています。
- その他にも、地域の特性を活かして高収益作物への転換ができるように、ほ場整備の現場へ行き、ワークショップによる課題解決を図る等、支援を実施しています。



昨年度、現場で意見交換等を行った様子(島根県出雲市)

④中央換地センター

- 農地の区画整理、担い手へ農地を集積・集約するためには、工事だけでなく、土地の権利に関わる「換地※」が必要不可欠です。
- 私たちは、各地で実施する換地の指導、制度の研修、調査研究などを行い、事業推進をサポートしています。

※ほ場整備事業等により、区画形状、道路配置など土地の様態が変わるが、工事前の土地(従前地)と、工事後の土地(換地)を法律上全く同一なものとして、権利の帰属関係を一挙に解決する法律行為。専門知識を持つ私たちが、全国各地で実施される事業の現場をサポートしています。



区画の整理にあわせて、換地と権利関係の調整を一体的に行うことで、担い手への農地の集積・集約化が実現

⑤技術開発部

- 小水力・太陽光発電は2050年カーボンニュートラルの実現に向けて推進が必要不可欠です。
- 私たちは、農業用ダムや農業用水路に設置されている小水力・太陽光発電の管理者に対し、技術力向上の研修や相談対応しています。

⑥管理システム研究部

- 土地改良事業は、多額の資金が必要で、一部は農家が負担しています。
- 私たちは、利子助成や無利子融資による農家の費用負担軽減対策を実施しています。

⑦支援部

- 私たちは、現場で汗を流す全国4,400を超える土地改良区や47都道府県の土地改良事業団体連合会の人達をサポートしています。
- 例えば、複式簿記導入や団体合併など実務に役立つテキストを作成したり、団体役職員向けの研修会を開催したりしています。

各種開催している研修会→
(web開催もスタートしました)

運営体制を強化するための
団体合併をサポート↓



←実務で役に立つ研修テキストを作成

その他にも、災害が発生した地域への技術者派遣の調整や、農業農村整備事業の普及啓発活動、制度に対する建議等、変化する時代を見据え柔軟に対応し、ここに記載の内容に限らず幅広く活動を展開しています。

右の写真はある日の打合せの様子、普段の仕事の様子です。多様な人達が様々な意見を出し合っています。

- 全国水土里ネット採用職員
- 都道府県水土里ネット出向者
- 土地改良区出向者
- 国での勤務経験者

総勢40名を超える職員がそれぞれの知識と経験を活かして活躍中！！

私たちは、女性も男性も共に活躍できる職場作りを目指しています！！



職員の声



【現在の担当業務】

総務部と言ってもいわゆる一般的な総務の仕事だけでなく、全土連が主催する全国規模のイベントの準備や47都道府県の会員の取りまとめなど幅広い業務を担っています。

【仕事や職場の魅力】

業務は多岐にわたる為、次から次へと新しい挑戦が待っています。自分の視野がどんどん広がっている気がします！

【皆さんへ一言】

私は転職組で、それまでの仕事とは全くの畑違い。不安の中、先輩方がやさしく指導してくださいました。これからは私も先輩方をみならって全力で皆さんをサポートします！どんなことでも気軽に声をかけてくださいね。



総務部 明嵐主査
全国水土里ネット平成30年採用職員

【現在の担当業務】

47都道府県にある「土地連」と連携を図りながら土地改良区の運営強化や農家の費用負担軽減のための支援等、農家の方と同じ目線で「オールジャパン」の業務を行っています。

【仕事や職場の魅力】

所属部署の仕事だけでなく、他部署との連携や協力して取り組む仕事もあり大変ではありますが、やりがいもあります。まさにやる気MAX！また47都道府県への出張があり、地域の人たちとの交流ができ、都道府県の旬な情報を得ることができます。

【皆さんへ一言】

私は、全国出張を制覇しました。日本の中心で農業を考えながら、地方で農業の実態を知り、学び、経験を積むことで、多くの知識を得ることができました。皆さんの若い力を求めています。一緒に土地改良の大切さを広げていきましょう。



管理システム研究部 野口次長
全国水土里ネット昭和61年採用職員



【現在の担当業務】

農業水利施設の整備補修を行う適正化事業や施設管理技術者の育成研修など担当。特別なプロジェクトはチームで取り組んでいます。

【仕事や職場の魅力】

全土連は、国と地方、農業者をつなぐ役割を担っています。地方や地元の声をすくい上げて、オールジャパンで俯瞰して協働で取り組む…。他の組織ではなかなかできない仕事だと思います。

【皆さんへ一言】

全国の関係者とネットワークが広がるので、全土連に“この人あり”と、全国にその名が広まります。きっと。

土地改良管理指導センター
勝又所長

全国水土里ネット昭和61年採用職員

【現在の担当業務】

冊子、絵画展、フォーラムを全国規模で展開、農業農村PRに日々奮闘。業界の女性参画も担当しています。

【仕事や職場の魅力】

国や県、国会議員等と直結、世の中を動かす情報が逐一入ってきます。「超」一流の指導が受けられます。

【皆さんへ一言】

やりがい欲しい、趣味と仕事を両立したい、女性活躍不安、どうせなら楽しく仕事したい、どうぞおいでください。人材豊かな職場であなたらしく頑張ってみませんか。



土地改良広報センター 牧所長
県庁での勤務経験者

若手職員の声



小島技師
全国水土里ネット令和5年採用職員

【志望動機】

実家が兼業農家を営んでいることから農学に興味を持ち、大学では農業土木を学んでいました。就職活動の当初は公務員を志望していましたが、全国規模で土地改良区の運営に貢献することができる全土連に惹かれ入職しました。全土連の情報集約と情報伝達の働きは今後の日本農業の持続的な発展に大きく貢献すると考えています。

【全土連の魅力】

今後の日本と地域の農業について真剣に向き合っている方々と一緒に仕事をする事ができます。各都道府県に配置された県土連の方と一緒に仕事をすることがほとんどです。出張に行けば各地の美味しいものが食べれますし、全国各地にお知り合いができます。



ある一日のスケジュール

- 9:30 【出勤】 スケジュールとメールの確認
- 10:00 昨日の打ち合わせ議事録の作成
- 12:00 【昼食】 手作りお弁当を食べます
- 13:00 改良区の方に対する聞き取り調査の資料の作成
- 16:30 資料の内容について上司に報告
- 17:00 県土連の担当の方に資料を送付
- 17:30 【退勤】 後片付けをしたら退勤

【募集概要】

令和8年4月1日付で採用予定の技術（農業農村工学（地域環境工学含む）・土木工学）職員若干名を募集します。

【受験資格】 以下の①～②すべてを満たす方

- ①平成7年4月2日以降に生まれた方（令和7年度末で満30歳以下）
- ②専門学校、短期大学、高等専門学校、大学、大学院を卒業・修了されている方、または令和8年3月31日迄に卒業・修了見込みの方

【採用試験】

- 1次試験 : 書類選考
2次試験 : 面接及び適性検査

【募集期間】

令和7年3月17日（月）～5月16日（金）まで

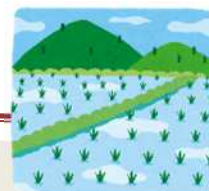
【その他】

詳細は当会HP (<https://www.inakajin.or.jp/>) に掲載されている「新卒者募集要項」をご覧ください。またはページ下部窓口にご連絡下さい。



←QRコードからも当会HPにアクセス可能です

給与・勤務形態・福利厚生



【給与】国家公務員と同等水準の給与により優遇するほか退職金制度を整備しています。

【諸手当】期末手当・勤勉手当（いわゆるボーナス）、通勤手当、住居手当

【勤務】9:00～17:00、9:30～17:30を選択可能（12時～13時は昼休み。7時間勤務）、有給休暇は初年度から20日間、土日、祝日、休日、年末年始（12/29～1/3）は休み。夏季休暇、育児休業等

【福利厚生】週2日のノー残業デー、GWや年末年始は一斉休業による休暇取得促進テレワーク制度の充実（PC等貸与）、健康管理（配偶者含めて人間ドックに助成）

【その他】採用時研修の他、国の研修等にも参加可能、資格取得を積極的に推進（費用助成もあり）、女性活躍を推進（えるぼし認定挑戦中）等



【相談（問合せ）窓口】

総務部：宮瀬（みやせ） 電話：03-3234-5591

メール：h_miyase@inakajin.or.jp



Q

この職場で働くためにはどんな知識が必要ですか？

A

私たちの仕事は、農業農村整備事業に関する技術的調査・研究のほか、同事業の法制度や実施方式に関わるものが多いので、農業農村工学や地域環境工学といったいわゆる農業農村工学系に関する基礎的な知識が必要です。

その他にも、広報活度や研修開催など幅広い取組を行っていますが、入会后、OJTによる研鑽を積むことで十分対応可能です。



Q

転勤はありますか？

A

職場は東京にありますが、入会後の現場経験やキャリアアップのため、数年間は東京以外の関係団体へ出向することがあります。



Q

出張がとても多い印象があります。実際はどれくらいあるのですか？

A

配属される部署にもよりますが、月平均すると1～2回位です。時期によっては業務が集中することがあり、その場合は出張から戻って、すぐに次の出張先へ。などということもあります。

ですが、47都道府県すべてを網羅している団体ですから、全国どこへでも行くチャンスがあり、仕事でなければ訪れる機会もなかったと、以外にも出張を楽しんでいる職員が多いですよ。



Q

具体的にはどのような方とお仕事する機会が多いのでしょうか？

A

農林水産省の補助事業や受託事業を請け負っていますので、農林水産省の職員の方とお仕事する機会が多いです。

次に多いのは、当会の会員である地方土地連の職員です。地方土地連とは連携し協力しながら業務を行います。

調査等で現地へ行けば、土地改良区の方や農家の皆さんとも交流があります。



Q

キャリアパスはどうなっていますか？

A

はじめは上司と共に仕事をしながら知識と経験を積んでもらいます。キャリアと共に責任ある大きな仕事を任せられますが、40名程度の組織なので早い段階から様々な部所で自ら考え行動する機会が多いです。キャリア後半になると、部長等管理職や役員への昇任もあります。



～東京のど真ん中から日本の農業農村を支える仕事～



■ アクセス

- ・最寄り駅は、地下鉄永田町駅（有楽町線・半蔵門線・南北線）です。
永田町駅には、赤坂見附駅（丸ノ内線・銀座線）改札内からも行くことができます。
- ・永田町駅の4番出口を出て、徒歩1分にある、砂防会館別館の4階です。

MENO

お待ちしております



ご不明な点等、お気軽にお問い合わせください
電話：03-3234-5591 e-mail：h_miyase@inakajin.or.jp
総務部 宮瀬（みやせ）、小島（こじま）



みどり
全国水土里ネット



令和6年12月時点

全国土地改良事業団体連合会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目7番4号 砂防会館別館4F
電話03-3234-5591 ホームページ<https://www.inakajin.or.jp/>

